

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2970700205		
法人名	社会福祉法人 三寿福祉会		
事業所名	グループホーム友徳苑		
所在地	奈良県五條市住川町1426番地		
自己評価作成日	平成25年10月29日	評価結果市町村受理日	平成25年12月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念に掲げている「家庭的な雰囲気の中」と言う一つに館内全体が木をふんだんに使用し、四季に応じた壁画を装飾する事で、利用者の五感を刺激し、日々の生活が充実したものとなるよう、環境面を整えております。利用者個々のケアには、ご本人様の要望はもちろん、家族様の要望も聞き入れ、安心して生活を送って頂けるように支援に努めております。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/29/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	奈良県国民健康保険団体連合会		
所在地	奈良県橿原市大久保町302-1 奈良県市町村会館内		
訪問調査日	平成25年11月13日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

在宅複合施設の一つとして開設されたグループホームです。「ゆったりとした時間」「一人一人の生活リズム」「ごく普通の生活」「地域住民とのふれあい関わり合い」を理念のポイントに掲げ、一人ひとりの生活歴、性格、思いを把握し、日々の生活が充実したケアとはどのような暮らしかを、職員一同は、常に追求されています。
金剛山麓の自然豊かな山間部に立地し、建物も、掃除が行き届き、明るく清潔感にあふれ、各所にバリアフリーが施されていると共に、木のぬくもりが感じられるよう随所に木材が多用されています。居間には畳の間があり、掘りごたつ、丸窓や紙障子が設えられ、大きな窓から周囲の山々が見ることが出来る等利用者の五感刺激、季節感や動線に配慮し、居心地良く過ごせるよう工夫されています。また、職員を実行委員として責任を持たせ課題解決に取り組んだ結果、運営推進会議の活性化や、消防署の協力を得て、利用者参加の年間2回訓練(夜間を想定した訓練も含む)を実施し様々な課題を見出す等サービスの向上に活かした取り組みや利用者が安心して生活が送れるよう支援されているホームです。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+Enter)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を理解し実践出来るよう入社時には説明行っている朝礼後に提唱しており職員は気を引き締め実践に繋げている。	日々のサービスの提供場面を振り返り、理念をケアに反映されているかを確認する等実践につながるよう、取り組みがなされています。	地域密着型サービスとは、認知症になっても自分らしく有する力を発揮しながら、地域で暮らし続けることへの支援です。こうしたサービスの提供者としてのホームのサービスのあり方について、全職員で検討されることを期待します。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域活動には出来るだけ参加し地域住民との交流を図っている。多方面からの訪問もあり交流を図っている。	立地上の制約から、その実現は困難ではあるが、必要性を認識し、できる限り買い物に出かける等交流の機会をつくるよう努力されています。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や家族会開催時に事例をあげ説明行い、協力を得ている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催し、現状報告や地域の取り組みや意見交換等を行っている。	職員を実行委員として責任を持たせ課題解決に取り組んだ結果、会議は、家族、地域の代表者、行政職員、地域包括支援センター職員等の参加の下、2ヶ月に1回定期的に開催し、サービス状況、外部評価等の報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスの質の向上に活かされています。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	現状報告行い、分からない所があれば、相談を常に行ない回答をもらっている。	現状報告や相談を行ないながら関係を保てるよう努められています。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会を行い、利用者様の行動を抑制しないよう、職員に周知徹底し取り組んでいる。	全ての職員は、身体拘束の弊害を正しく理解し、身体拘束のないケアに取り組まれています。日中玄関は施錠することなく開放されています。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常日頃より、精神的虐待等、職員同士見逃ごす事のないよう、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会を通し職員には説明行っており、対象者の家族様には説明できるよう知識を深めている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前、不安を抱えたままにならない様、十分な説明を行い、安心して入所できるよう配慮している。改定等の時には理解して頂くまで説明行っている		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や他、電話等で近況報告行くと共に要望確認を行い、サービス計画書に反映している。	手紙や面会時、家族会等で常に問いかけ何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに留意されています。出された意見、要望等は検討し反映されています。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度全体会議・セクション会議を開催し、職員の意見を身近に聴き業務改善に繋げ安心して働ける環境作りを行っている。	毎月1回全体会議やセクション会議を開催し、意見交換が行なわれています。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回自己評価にて職員自身判定を行っている。職員の苦手な箇所は助言・指導しモチベーションを上げる様に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、内部研修会を行い知識・実技が身に付くよう理解度を高めている。また職員個々に合った外部研修にも参加して頂き、スキルアップに繋げている		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	3ヶ月に1回、他のグループホームとの事例勉強会を行い、その中で活動報告や情報交換を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族様・本人から生活状況を聞いたうえで、不安に思っていること受容し、安心して頂けるよう心がけ、信頼関係が築けるよう努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の今までの気苦労や抱えている悩み・要望等を話し合い、少しでも気持ちが落ち着き、リラックスした雰囲気を作り、何でも相談して頂ける様に努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族様から話を聞き、グループホームでの生活が必要なのか緊急性があるのか見極めて入所して頂き、またグループホームでの生活に困難が生じた時には、その人に応じた他のサービス・事業所提供を行っている		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様とは家族のように接し、職員への気遣いをされないよう配慮行い、その中で、その人の出来る事を見つけ出し、その人らしく生活出来るよう支援行っている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様には定期的に日常生活状態を報告し、面会時にも細かな状態報告行っている。出来る限り、面会に来て頂くと共に、利用者様と過ごす時間を多く取れるよう行事参加の呼びかけをしている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	時折、知人の面会はあり、また来苑して頂きやすい雰囲気づくりをしている。利用者が行きたい場所等は出来る限り要望通りに支援行っている。	墓参りに出かけたり、地域に暮らす知人の面会がある等馴染みの人や場の関係継続の支援に努められています。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合った利用者様同士のコミュニケーションは良好であるが、職員がレクリエーション等通じ、利用者様が孤立しないよう支援行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設施設に移行された利用者様・長期入院で退所された利用者様の面会行い、家族様と話す機会をもっている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的にケース会議を行い、利用者がどう生活していきたいのか、「その人らしく」暮らせるようにとアセスメントを立てている。	日々のかかわりの中で、声を掛け、把握し、言葉や表情などからその意思を推し測ったり、それとなく確認するようにされています。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に家族様から生活歴や習慣・好みなど聞かせて頂き、職員が情報の共有行い、生活に生かせるよう取り組んでいる。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、状態観察行い生活リズムを把握するよう努めている。個々に応じたレクリエーションを提供し生きがいへと繋げている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、モニタリング行い家族様にも意見・要望を聞いたうえで、再アセスメント行い、利用者本位にたったケアを実践している。	アセスメントや日々の記録を基にモニタリングを行い現状に即した介護計画を作成されています。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のケースを記載する事で、重要な事や細かな気づきもあり職員が情報の共有するなかで、介護計画の改善にも繋がっている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内での開催される行事、介護教室、ボランティアの訪問に参加させて頂き、普段とは違った外部交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域が定期的開催している「サロン」へ出向き地域住民との触れ合える機会を設けている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前のかかりつけ医を継続しながら、利用者の安心できる医療を確保している。家族の都合でやむを得ず受診できない場合は、当苑の医療機関で受診し、混乱なく受診できる環境を確保している。	本人や家族の希望するかかりつけ医とされています。基本的には家族の同行の受診となっていますが、普段の様子や変化を伝え情報提供する等支援されています。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の体調、様子に変化が見られた際、迅速に併設施設の看護師に随時相談し、医療面でのサポートをして頂いている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院されて場合は、面会に行き看護師及び、相談員との相談や退院後のアセスメントを立て、退院後も混乱なく以前のような、生活が送れるように、支援策、今必要な事項を立てている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期における職員の理解度は年々深まっているが、現状は退所して頂いているのが現状である。事業所での取り組みを考え、家族、医療分野での協力体制を図って行きたい。	現在のところ、ホームの力量や体制が十分整っていないことから、入居時にホームが対応し得る最大のケアについて、説明し納得を得るようにされています。	本人や家族の大きな関心ごとの一つが重度化した場合の対応の在り方です。こうしたニーズに応えられるよう、その実施に向けて体制を整えられるよう期待します。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急の講習を受講し職員全員が応急手当を行えるようにしている。また利用者の日頃の様子を観察する事で迅速な対応が出来るように早期発見に努めている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中や夜間の地震・火災を想定した防災訓練を行っている。消防署員にも来て頂き、利用者様にも参加して頂き避難誘導し綿密な訓練を重ねている。	消防署の協力を得て、利用者参加の下年2回訓練(夜間を想定した訓練も含む)を実施されています。ホームの職員や同法人の職員の協力体制も確保されています。	訓練には地域住民の参加が見られませんが、職員だけの誘導には限界がありますので、地域住民等との連携を図り協力体制を築いていく取り組みが期待されます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親しみある言葉で話す一方、敬う気持ちを忘れず対応している。またプライバシーの保護・個人情報の管理を徹底している。	常に言葉掛けやケアには、敬う気持ちを忘れず対応されています。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活全てに選択出来る場面を設け、自己決定を大切にしている。また本人の希望に沿った支援を行っている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活の中でも、生活習慣や生活リズムを崩す事のない様、配慮行い自宅での延長のように時間にとられる事のない様、個々の時間を大切に過ごして頂いている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の好みを尊重し散髪をして頂いている。整髪や衣服を整え清潔保持にも努めている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎月、要望を取り入れた行事食やおやつ作りを利用者様と行い、季節の食材も取り入れ提供し、食する事への喜び・楽しみを感じて頂いている。	おやつ作りや配膳、下膳等は利用者と職員が共に行い、朝食以外は施設の厨房で調理したものを、利用者と職員と一緒に食事されています。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に応じた食事形態での提供行い、水分も嗜好品を取り入れ水分確保に努めている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは習慣づいており、残渣物が無いか確認も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握に努め、定期的に排泄誘導を行い、失禁防止に努めている。	排泄表を使用し、時間を見計らって誘導しトイレで排泄できるよう支援されています。確認や誘導はあからさまではなく羞恥心に配慮した支援をされています。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動や、バランスの良い食事摂取や水分補給に工夫を行いこまめに提供している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴要望に応じ利用して頂き、入浴拒否される時は、本氏の意味を尊重し対応している。	本人の意向に沿っていつでも入浴できるように支援されています。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居間を活用し休息を取って頂いたり、利用者の生活リズムを崩すことのないよう刺激を軽減し、夜間安眠へと繋げている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診・往診結果に目を通し、服薬内容等の確認を行っている。服薬管理・投与は職員が行い誤薬がないようセットは2人で行い確認印をつけている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合った、生活リハビリの提供やレクリエーションに参加して頂き、達成感・気分転換を図っていただいている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の体調勘案しながら、天気の良い日には外気浴を行い、出来るだけ季節を感じて頂ける場所への外出支援や、買い物支援を行っている。	近隣での散歩の他、買い物や公園に出かける等支援されています。今後さらに、これまでの生活の継続としての外出支援に取り組んでいきたいと考えられています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族様了解の下、小遣い金を所持している利用者様もおられ外出時、買い物支援を行っている。原則、職員管理であり要望に応じ、職員が利用者の小遣い金を預かり、嗜好品の買い物を行っている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の要望があれば、電話使用して頂いたり、難聴の方は代弁し話を伝えている。手紙は代筆にて行っている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気作りを行うと共に、季節の花々を生けたり、壁画づくりを行い、温かみのある空間、環境に努めている。	バリアフリーで、木のぬくもりが感じられるよう随所に木が多用され、居間には畳の間があり、掘りごたつ、丸窓や紙障子を設える他、明るく清潔感にあふれ、大きな窓から周囲の山々が見ることが出来る等利用者の五感刺激、季節感や動線に配慮し、居心地良く過ごせるよう工夫されています。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間に上がられ休息を取れるよう、長座布団を敷いたり、話の合う利用者様同士が居れる空間作りをしている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅とのギャップがないよう安心して過ごして頂ける様 以前、自宅で使用されていた馴染みの物を持ち込んでいただいたり、本人の安心できる環境作りをしている。	写真や鏡台等本人の思い出の品々が持ち込まれ、それぞれの利用者が居心地良く過ごせるよう配慮されています。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自由に歩行リハビリをして頂いたり、レクリエーションで壁画作りをし展示する事で喜びや達成感を持っていただいている。		